

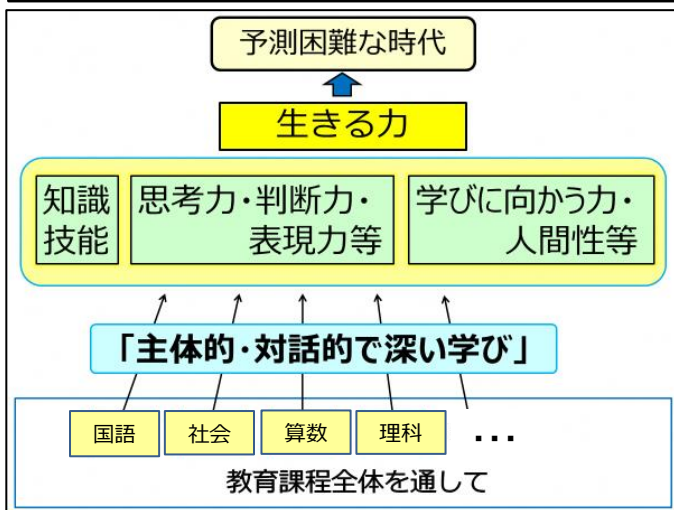
研究主題：知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」に関する研究（平成29年～30年度）

研究の目的

○新学習指導要領の趣旨を踏まえ、知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点を明らかにする

本研究において、一年次（平成29年度）に明らかになったことを紹介します。

なぜ、「主体的・対話的で深い学び」なのか？



これから子供たちが生きていく時代は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により予測困難な時代になると言われています。このような時代を子供たちは生き抜いていかななくてはなりません。つまり、今まで以上に変化に対応するための生きて働く力が必要になってきます。この生きる力を育てていくに当たって、教育の担う役割は非常に大きいと言えます。

新学習指導要領では、このような「生きる力」を具体化して「資質・能力」として示しました。その資質・能力を、生きて働く「知識・技能」、未知の状況にも対応で

きる「思考力・判断力・表現力等」、変化に積極的に向き合い、課題を解決していこうとする「学びに向かう力や人間性等」の三つに整理して育てていくことにしたのです。上の図のように、各教科等の学習は、この三つの資質・能力を育成する重要な役割を担ってきます。そこで、これから大切になってくるのは授業の質だと言えます。子供たちが、質の高い学びができるよう授業改善をしていくことは必須のこととなってきます。その授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」が示されたのです。これは、知的障害教育においても何ら変わりはありません。そこで、当センターでは、今回の研究において「知的障害教育における『主体的・対話的で深い学び』に関する研究」というテーマを設定しました。

知的障害のある児童生徒の学習上の特性等

さて、ここで知的障害のある児童生徒の学習上の特性等を確認しておきたいと思います。現行の学習指導要領解説には、次のように示されています。

- 学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の場面の中で生かすことが難しい
- 成功体験が少ないことなどにより主体的に活動に取り組む意欲が十分育っていないことが多い

（特別支援学校学習指導要領解説 総則編 一部抜粋）

このような点を見ると、「主体的・対話的で深い学び」を小・中学校通常の学級の子供たちと同じようなやり方で実践していこうとすると、難しい点がいくつかあるのではないかと考えます。それらを明確にしながら、どのような授業改善の視点をもって「主体的・対話的で深い学び」を実現させていけばよいかを明らかにする必要があると考えました。

知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」とは？

そこで本研究では、学習指導要領等の文献、協力校の実践から、知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」を次のように捉えました。また、学校現場における現状についても整理しました。



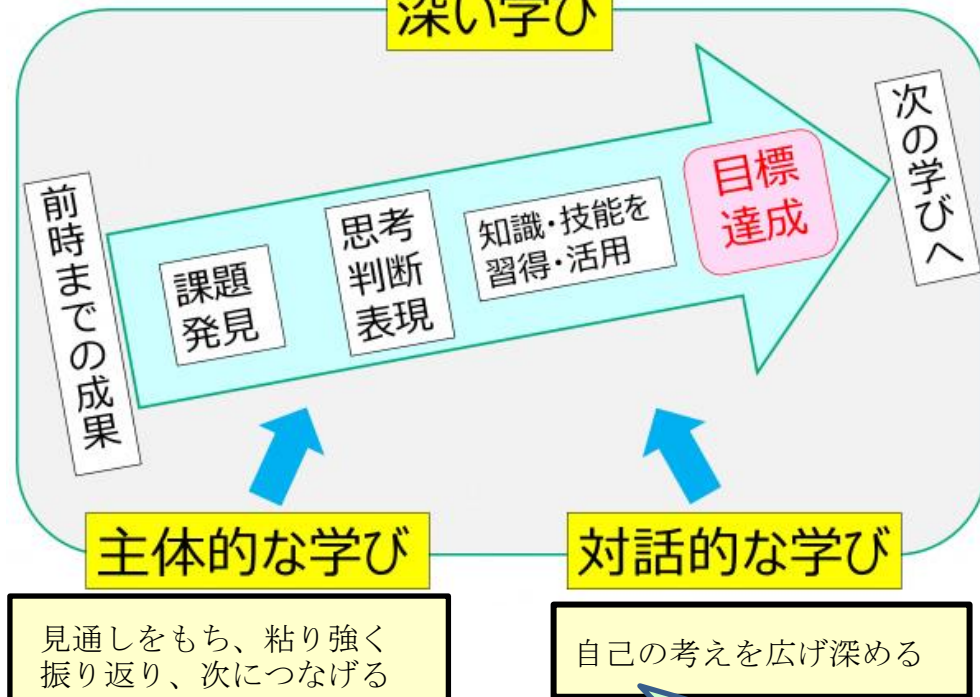
現状としては・・・

- 実態に応じた目標設定の難しさ
- 各教科等を学ぶ本質的意義を捉える難しさ

- ・知識を関連付けて深く理解する
- ・考えを形成する

- 深い学びとは、
 - ・汎化に繋がる学びであること
 - ・目標達成に向けた学びであることが大切である

深い学び



- 主体的であるためには、
 - ・学びへの興味・関心があること
 - ・目標意識があること
 - ・次の課題が分かること等が大切である
- 主体性とは、目標達成に向けて働く必要がある

- 対話には、
 - ・書物・環境・状況との対話
 - ・自己内対話等も含まれる
- 対話は目標達成のために行われる必要がある



現状としては・・・

- 単なる興味・関心
- 活動の流れのみの提示



現状としては・・・

- 考える場面の設定の難しさ

授業改善の視点

前述のように、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点を明らかにしてきました。しかし、この視点を形式的に取り入れても、それがそのまま授業改善につながるわけではありません。深い学びの欄にも挙げましたが、目標設定は実態に応じたものであることが大切になります。例えば、目標が難し過ぎても、易し過ぎても深い学びにはつながりません。やはり適切な実態把握とそれに基づいた目標設定が重要になってきます。

また、目標設定には、実態との整合という視点に加えて、その各教科を学ぶ本質的な意義や目標も捉えておく必要があります。

このような実態と各教科を学ぶ本質的な意義を捉えた上で、目標を設定し、次のような具体的な視点例をヒントに授業改善を進めていくことを提案します。

○適切な実態把握

○各教科を学ぶ本質的な意義



目標設定

〈主体的な学び〉

- 目標を意識付ける教師の問いかけ
 - 実物を活用する単元設定
 - 記憶に配慮した振り返り
 - 生活、実際に近づけた場の設定
 - 体験から学ぶ学習設定
 - 活動への期待と結び付けた学習展開
- 等

〈対話的な学び〉

- 思考を促す言葉かけ・環境設定
 - 個に応じた表現を引き出す関わり
(動作・○×で表現 等)
 - 児童生徒を結ぶ教師の言葉かけ
(他者評価 等)
- 等



〈深い学び〉

- 汎化・応用に向けた場の設定
 - 実態に応じた目標設定
- 等

※主体的な学び、対話的な学び、深い学びに挙げた視点は、協力校の実践から得た授業改善の視点の例です。

二年次の研究の方向性

- 協力校、協力委員と協働し、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、授業改善を行い、その実践を紹介する

